

7月9日(火)

積極的に祈る

聖書朗読 詩篇 119:25~40

みこころが天で行われるように地でも行われますように。 マタイ 6:10

理由はよくわかりませんが、この世で起こることすべてが神様のみこころであると考えている人がたくさんいます。でも、それは真実ではありません。殺人によって命が奪われたり、不倫によって家庭が崩壊したりするのは神様のみこころではありませんし、薬物乱用や虐待等によって人々が荒廃したり、病気で体が不自由になったりすることも神様のご意志ではありません。神様はご自身の目的を達成するために罪と病氣を用いられることがあるかもしれませんが(ローマ 8:28)、それは神様が望まれたことではありません。最終的には、神様はすべての悪を滅ぼし、ご自身の目的を完璧に成し遂げられますが(黙示 20:10~14)、その時はまだ来ていません。ですから私たちは、みこころが地でも行われるようにと祈ります。私たちは消極的な祈りや無関心な祈りをする訳にはいきません。世の中で何が起ころうとも、気を落とさずに、一生懸命に積極的に祈らなければなりません。

それがダビデの祈り方です。みこころがなされることを強く望むがゆえに、ダビデは『あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が、あなたの奇しいわざに思いを潜めることができるようにしてください。』(27節)と祈らざるを得ませんでした。しかしまたダビデは、『神よ。立ち上がってください。神の敵は、散りうせよ。神を憎む者どもは御前から逃げ去れ。』(詩 68:1)とも祈っています。ダビデはみこころを愛すると同時に、みこころに反することすべてを憎みました。みこころが地でも行なわれますようにと心から祈る時、あなたは自分自身の生活においてもみこころが行われることを積極的に追い求め、同時にサタンやその邪悪な世界システム、その他、みこころに反するすべてに対して異を唱えて対抗しています。

聖歌 313 主よわがいのち

祈り 天のお父様。ダビデというお手本を与えてくださって感謝いたします。自分の置かれている状況を超えて、あなたが私たちを通して成し遂げようと望んでおられることを理解できる知恵を、どうぞ私たちに与えてください。イエス様のお名前において。アーメン。

テネシー州 ヘンダーソンビル / ビル・タイナー

7月10日(水)

苦しみをなくして喜びなし

聖書朗読 詩篇 119:65~80

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。 ヤコブ 1:2~3

「主よ。どうして私なんですか。なぜ私がこの苦しみと痛みを経験しなければならないのですか。」このように人々が問いかけるのを何度も耳にしましたし、私自身もよくそう問いかけました。罪のない人々が痛みや困難に苦しんでいるのを見ると、不公平に思えますし、良いこととみなすのは難しいです。でも神様の良い賜物を通して神様の慈しみを学ぶのと同じように、神様が私たちにもたらされる困難を通して、同じように神様の慈しみを知ることになるかもしれません。主は使徒パウロにこう言われました。『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。』(コリントⅡ 12:9)

主の御恵みは私たちに、現実を超えて最終的な結果を見通す力、勇気、信仰、知恵を与えてくださいます。神様への献身が強まり、人生における重要なことについての理解が深まり、キリストにある永遠の命への希望が高まります。私たちが霊的に成長するにつれて、神と共にあることの喜びも大きくなります。神様は私たちに平安と、何が起きても頑張り続けられる力を与えてくださいます。それで私たちが詩篇作者が書いているように、こう言うことができます。『あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。』(74節)

聖歌 347 いかにおそるべき

祈り お父様。弱さと試練にある時、御恵みを与えると約束して下さり、ありがとうございます。私たちが困難なときを経験して成長し、あなたの愛と喜びをより明確に認識し、それを他の人に示すことができるように助けてください。私たちの希望であるキリストによって。アーメン。

メリーランド州 エルクリッジ / エルディーン・ブリガム

7月11日(木)

神様を愛するとは

聖書朗読 詩篇 119:33~40

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」 マタイ 11:30

子どもころの私は、両親が決めた規則が、私の将来の幸せを願ってのものだとわかっていませんでした。でも自分が親となった今はよく理解できます。詩篇の中でダビデはみおしえに対する愛を表現していますが、どうしてダビデは自分の望むことや好きなことを制限したり禁止したりする、みおしえを愛するのでしょうか。その理由は、みおしえはダビデに知恵と悟りを与えてくれるからです。みおしえはダビデを悪から守り、救い出します。

私たちを導き守ってくださるためにイエス様の命令が与えられたことは、まさに神様の御恵みによるものです。私たちは自分自身の善良さや律法を守ることで救われるのではなく、イエス・キリストの恵みによって救われているのです。神様の大きい愛に対して、私たちは神様に従うことでお応えします。神様が望まれることを行なったダビデに、神様がお与えになったものと同じものを、私たちもまた同じように、神様が望まれることを行なうことで与えられるのです。それは知恵、悟り、守りです。神様を愛する者は神様の命令を守ります。

神を愛するとは、神の命令を守ることです。

その命令は重荷とはなりません。 — ヨハネ I 5:3

聖歌 500 みことばなる光のうち

祈り 親愛なるお父様。私たちが知恵と悟りを得て、悪から守られるように、今日、私たち一人一人があなたの神聖な命令を愛し、従うことができるように助けてください。イエス様のお名前において。アーメン。

カリフォルニア州 バーバンク / トラヴィス・ショー

7月12日(金)

信頼という宝物

聖書朗読 詩篇 119篇161~176

私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。

詩篇 119:162

現代において、シニシズム*が蔓延しているにも関わらず、社会全体、そして特に個々の人間関係は、信頼関係で成り立っています。ビジネスにおけるやり取りにおいても、個人的な関係においても、信頼関係があるからこそ機能するのです>(*徳こそ唯一の善であり、幸福は欲望から自由になることによるのみ達せられるという考え)

聖書を見てみると、神はご自分の民との約束を全て成就して下さいました。それは、私たちが神を信頼することへの励ましともなっています。ソロモンは神についてこう言っています。『しもべモーセを通して告げられた良い約束はみな、一つもたがわなかった。』(列王記I 8:56)。

神ほど約束に忠実なお方は存在しせん。あなたも私も、神に赦された者であり、神の子とさせて頂き、聖霊と永遠の命を頂くという神からの最高の宝物を頂きました。なんといいいなことでしょう。つまり、私たちが神を信頼することは、神と私たちの関係の揺るぎない土台なのです。

神様のお約束は、空の上を照らす虹のようです。

そして、虹は、神の変わらぬ愛のしるしです。

聖歌 456 栄えの王にます主の

祈り 親愛なるお父様、あなたはお自分がお約束されたことにいつも忠実なお方です。あなたに信頼することは私たちの宝物です。今日一日、あなたが信頼するに値するお方であることを常に心に留めておくことができますように。私の救い主のお名前によって。アーメン。

ヴェントウーラ カリフォルニア州 / デイブ・シュルツ

7月13日(土)

私は平和のために

聖書朗読 詩篇 120篇

平和を作る者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。

マタイ 5:9

神の民として私たちはみ言葉に従うゆえに、世の中で誹謗中傷されることがあるかもしれません。例えば、私たちがクリスチャンであるがゆえに、人は不平不満を言い、嘆き、誘惑し、私たちから主にある平安を奪い去ろうとするかもしれません。たとえそういうことが起こったとしても、神は、私たちが人間関係において平和を保つこと、また私たちの態度も常に穏やかで平安に満ちたものであることを望んでおられます。しかし、先程も申しましたように、時として平和を作る者は憎まれてしまうことがあります。

聖書の中で、神を愛する者たちが神殿に礼拝するために上っていくとき、自分たちが正しいことをしていると確信していましたが、自分の周りの国々は自分たちに危害を加えようとしたり、辱めたり、破壊しようと考えていたことを知っていました。神の民たちは、それらに対して取り乱したりすることなく、自分のすべきことに邁進していきました。

現代に住む私たちも、常に自分の目指すところ、正しいことを目指して歩いていきましょう。この地上において、私たちは羊のように傷つきやすく、周りにはあらゆる嘘、裏切り、暴力が取り巻いています。しかし、私たちには導いて下さり、平和を備えて下さる羊飼いであられる神様がいて下さいます。私たちは、この世に属していません。私たちが天国に行く時まで、この地上において、主にある平和を求め続け、神と人と神の民の中であって平和的関係を築いていきましょう。

聖歌 295 なしたまえ、ながむね

祈り 全能なるお父様、私たちはこの世界からあらゆる影響を受けています。どうか、私たちが平静を保ち、強さと忍耐をもって、平安に満ちた天の御国に入るまでこの地上で歩いて行くことができますように助けて下さい。イエス様の御名によって。アーメン。

サウスキャロライナ州 サムター / スチュアート・シュヌーア

7月14日(日)

神の家

聖書朗読 詩篇 122篇

人々が私に、「さあ、主の家に行こう。」と言ったとき、私は喜んだ。

詩篇 122:1

私たちの教会では、各教室にあるスピーカーで、クラスの出席をとります。三歳児のクラスでのことです。スピーカーから「出席をとります」と言う声が流れて来ると、神様を信じて疑わない三歳児の男の子が不思議そうに、また真剣な面持ちで、スピーカーから聞こえてくるこの世のものとは思えない声は誰なのかと尋ねました。「先生、今の声は神様のお声ですか？」彼は CS クラスで礼拝という意味を学んでいました。この子にとって神様がごうち(教会)にいるというのはごく自然なことでした。そして、神様がご自分のうちの礼拝に何名参加しているのかを知りたかったのだと思ったのです。

教会にはこのような子が必要です。主にある働き、献身など全てはとても重要なものです。しかし、私たちが礼拝(主の家)において、主に出会い、主への畏敬を保ち続けることは大切なことです。礼拝は、主の前に私たちを連れて行って下さいます。私たちが主の家に集まる時こそ、主のご臨在が最も最高潮に達するのではないのでしょうか。そこに私たちが存在するとき、私たちは、主にある平安、守り、豊かさを感じることができます。さあ、私たちもこの子のように子どものような心を持ちましょう。神の家に入りたいという思いをもっと熱く持ちましょう。そして、そこで、熱心に主の声に耳を傾けましょう。

讚美歌 3 ほめ歌え、主の御名を

祈り 主よ、私があなただけの家に入りたいという思いを強くしてください。そして、私が礼拝で、主の臨在して下さっている時間を有意義に使い、恵みを頂き、感謝することができるようにしてください。大胆に主の前に来ることを可能にして下さったイエス様の御名によって。アーメン。

カリフォルニア州 バーバンク / ランディ・シャックマン